

# せとうちSEAPLANESの取り組みと 今後の展開

---

(平成27年度 航空管制セミナー資料)

**2015年10月29日 (木)**

---

**株式会社 せとうちSEAPLANES**

**松本 武徳**









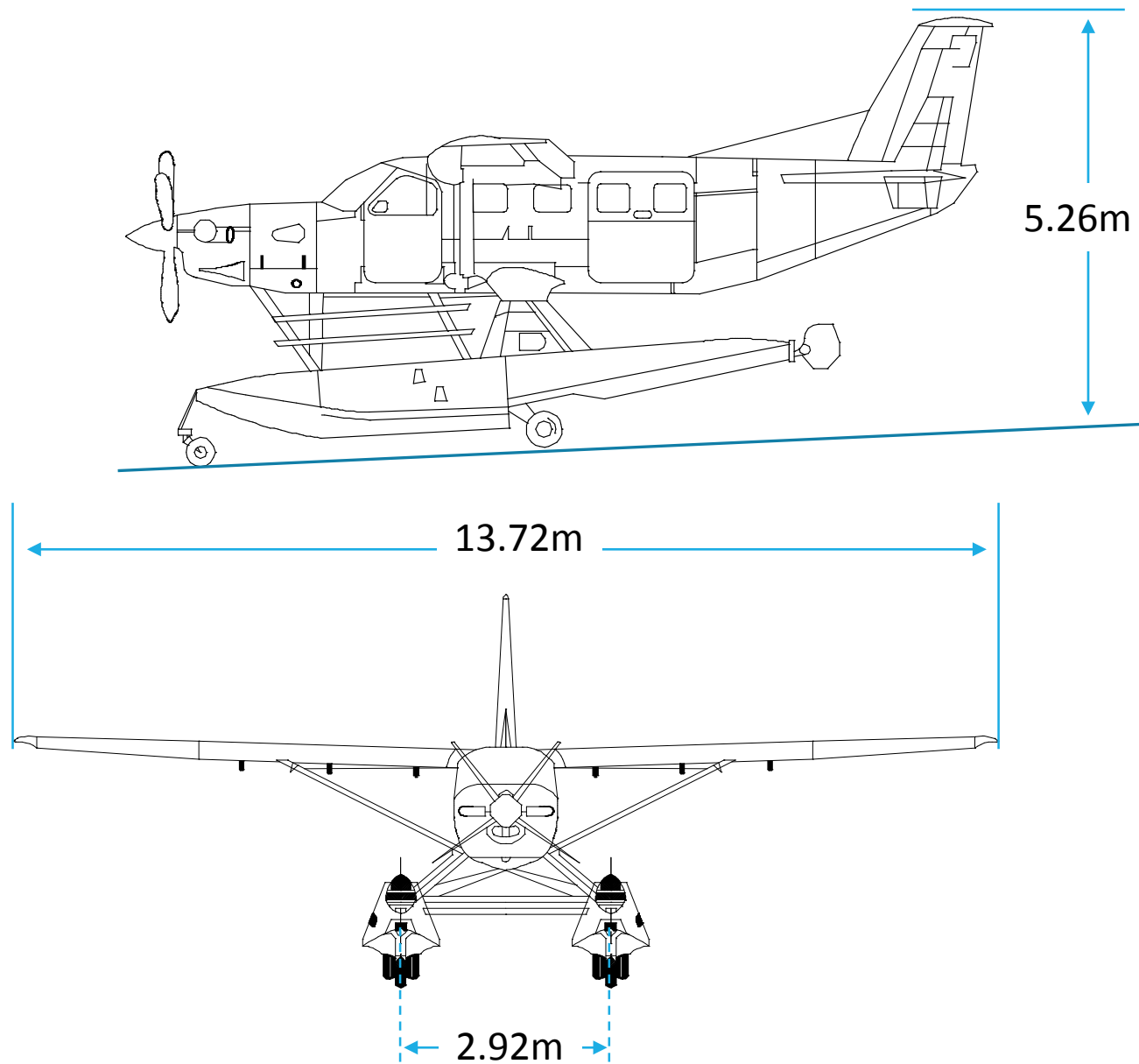
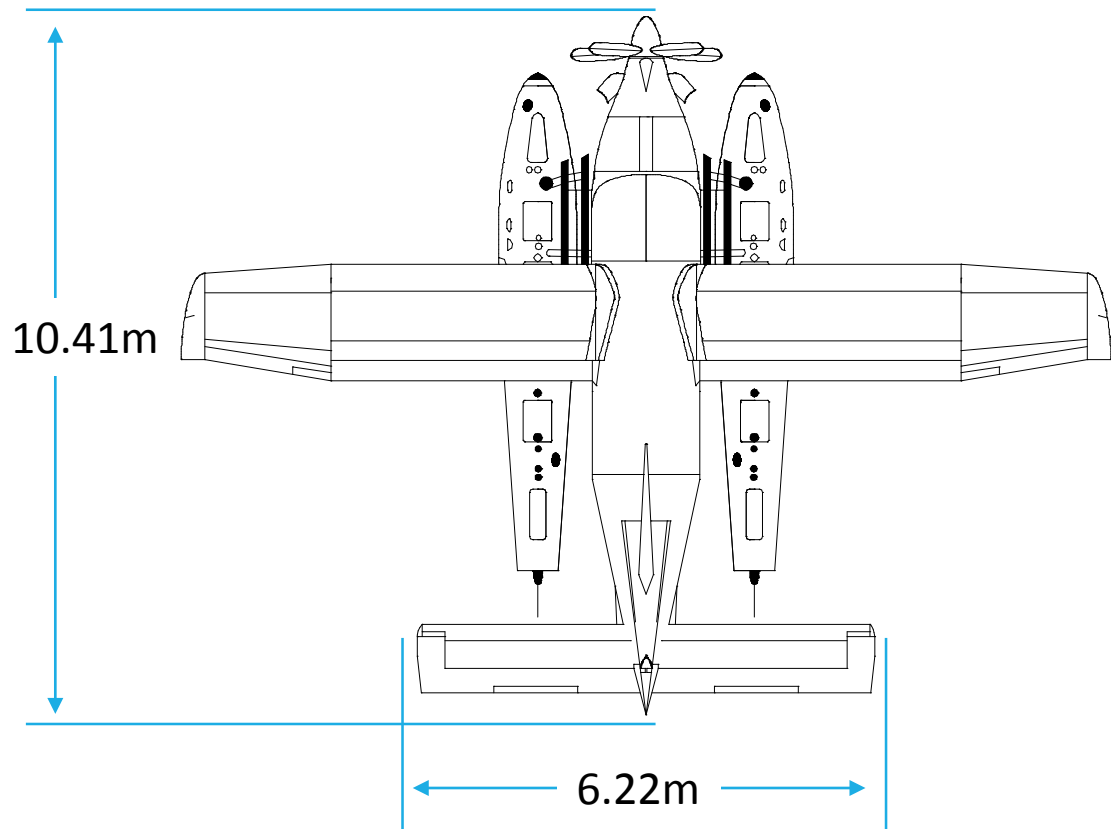






# KODIAK 100 水陸両用機緒元

## ・三面図



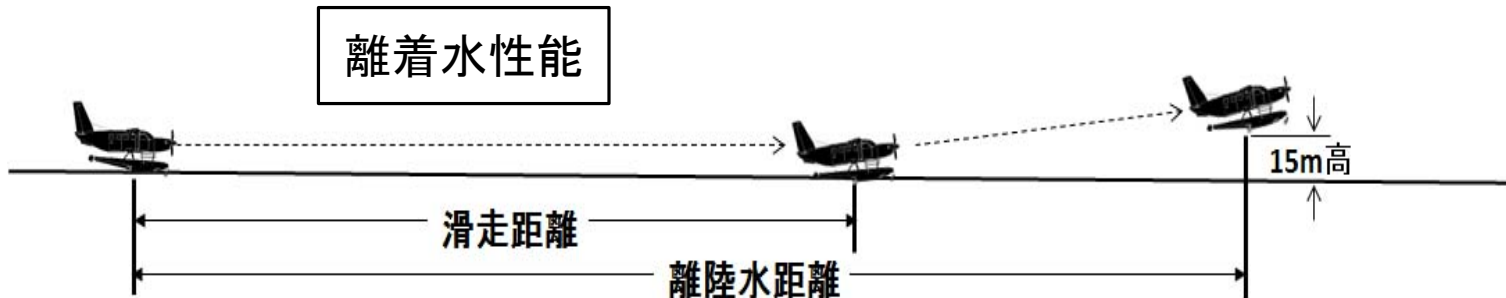
● 重量関係

- ・最大ランプ重量:3,313kg →(最大離陸重量にランプ(駐機場)から離陸水滑走開始位置まで走行するのに消費する燃料の重量を足したもの)
- ・最大離陸水重量:3,291kg →設計最大重量
- ・最大着陸水重量:3,266kg →設計最大重量
- ・最大零燃料重量:2,944kg →燃料が搭載されていないときに許容される最大重量
- ・標準空虚重量:2,041kg →機体構造・エンジン・プロペラ・固定装備品などの合計重量
- ・標準最大可載重量:1,250kg →搭乗者、貨物等、搭載可能な最大重量
- ・最大搭載燃料容量(重量): 1,211kg(987kg)

● 性能関係

- ・最大運用高度:20,000フィート(6,100メートル)
- ・離着陸水性能

		水 上	陸 上
離陸水	滑走距離(離陸水滑走開始～浮揚)	530m	300m
	離陸水距離(離陸水滑走開始～15m高通過)	710m	460m
着陸水	着陸水距離(15m高通過～停止)	930m	620m
	滑走距離(着陸水～停止)	400m	400m



# せとうちSEAPLANESの理念

地域経済の活性化等、地方創生、瀬戸内観光の振興、観光立国への協力  
(外国人インバウンド2000万人目標に協力)

日本における水上機運航の実現、その振興(まず最初に水上機の魅力を瀬戸内より発信)

災害時の支援、医療支援等のボランティア活動等を行い地域社会に貢献

安全運航の確保(大手航空会社に匹敵する安全文化の構築)

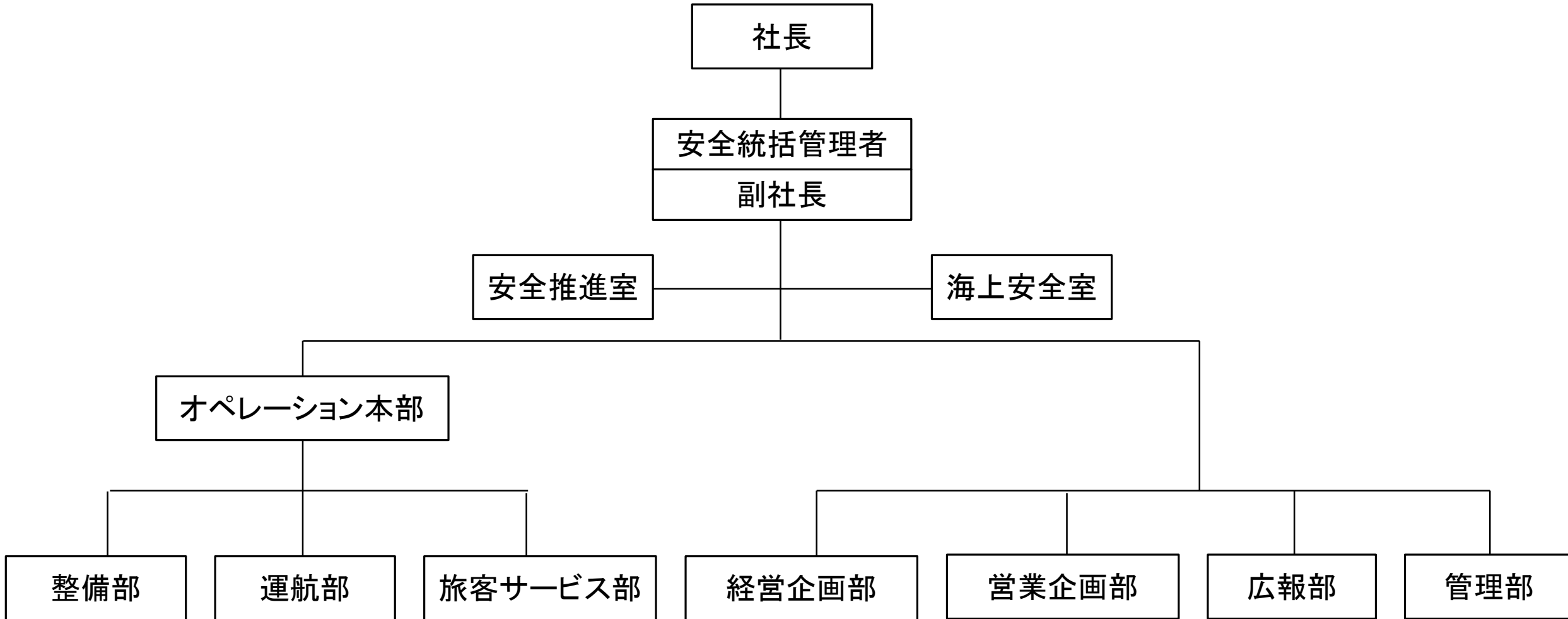
多数の社員が大手航空会社、航空局、海上保安庁出身者

**小さく生んで大きく育てる(事業の急拡大は避けしっかり基礎固めをする)**

**境ガ浜中心に十分な運航経験を取得する**

**乗員は米国訓練スクールでベテラン教官による水上機及びコディアック100水陸両用機の訓練を受ける**

# せとうちSEAPLANES組織図



# 整備・運航基地等

境ガ浜マリーナのフローティングアイランドに整備基地を設ける

境ガ浜マリーナに運航管理施設、旅客受付カウンター、旅客乗降棧橋を設ける



離着水エリア

飛行経路







離着水エリア



水上経路

500m

# 事業内容

来年4月2日に境ガ浜で遊覧飛行事業を開始する

当初は2機を使用して遊覧飛行を行い、その後2機を追加してチャーター飛行、例えば水陸両用の特性を活かし、瀬戸内観光客を関西空港から境ガ浜に運送するチャーター飛行を実施する

その後、順次増機し、運航規模を拡大する

日本全国においてデモフライト、招待飛行を実施し、水陸両用機就航の適地を探し、遊覧飛行、旅客運送を実施する(大阪湾、東京湾、宮島、直島、霞ヶ浦、山田湾、松江、有明海、ハウステンボス、関西空港など)

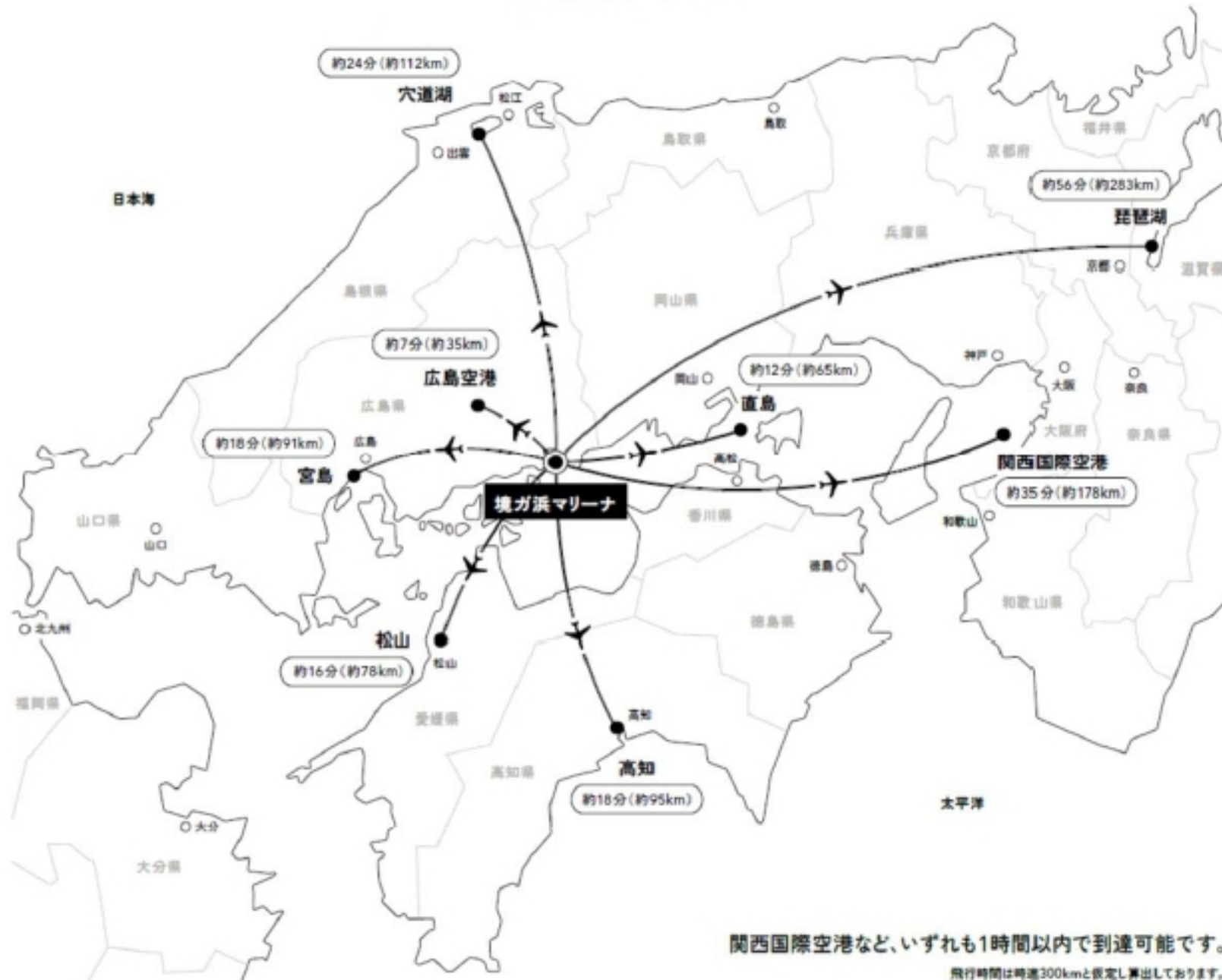
境ガ浜にフライトスクールを開設し、水上機のパイロットを養成する

水上機、水陸両用機に係る整備、運航を受託する



\*パイロットは除く

拠点：境ガ浜マリーナ



関西国際空港など、いずれも1時間以内で到達可能です。

飛行時間は時速300kmと仮定し算出しております。

## 陸と水をつなぐ新たな移動ツールとして

従来の地理的距離とビジネスチャンス

導入予定機に代表される小型水上機の最大航続距離は、1,500km以上。  
地方漁マリーナを中心とした場合、一回の給油で県下全域をカバーするのみならず、  
北は仙台、南は徳之島、海外ではソウルも往復可能となります。

